

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：34421

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02597

研究課題名（和文）共生社会の実現を目指す「総合的な学習の時間の指導法」の教職教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a Teacher Training Program for "Method for Period for Integrated Studies" towards Inclusive Society

研究代表者

沼田 潤 (Numata, Jun)

相愛大学・人文学部・准教授

研究者番号：40735289

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、様々な背景を持つ人々が互いの違いを認め合い、対話を通して対等な関係を築く共生社会の実現に貢献する資質を育む「総合的な学習の時間の指導法」のeラーニングを採用した教育プログラムを開発した。そして、そのeラーニングを採用した教育プログラムについて、学生の意見をもとに検討を行った。その結果、eラーニングコンテンツの情報量の多さやいくつかの難解な内容によって十分にコンテンツの内容を理解することが難しいということが見えてきた。学生が集中して取り組める情報量で、さらに、学生にとって身近な課題を取り上げ、共生社会の実現に貢献する資質を育む教育プログラムを開発していくことが重要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学校教育における「総合的な学習の時間」の重要性が高まっている一方で、その指導法に関する研究はこれまで十分に蓄積されているとは言えない。「総合的な学習の時間」を指導できる教員養成において活用される教育プログラムを構築することは喫緊の課題であり、本研究で構築したeラーニングを採用した教育プログラムによって、よりアクティブな対面学修を可能にすることが期待され、学校教育における「総合的な学習の時間」を効果的に指導できる教員の養成に貢献するものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study developed a teacher training program for “Method for Period for Integrated Studies” to foster qualities for inclusive society where people with various backgrounds try to accept their differences each other and build equal relationships through dialogues. Moreover, the problems of the programs were examined based on university students’ opinions about the program. From the results, students’ opinions showed that the large amount of the program’s information and some difficult contents made it hard for them to comprehend the program. Therefore, it is vital to develop educational programs that foster qualities for the realization of inclusive society, with the adequate amount of information and familiar issues to students.

研究分野：異文化間教育学、教育方法学

キーワード：総合的な学習の時間の指導法 教職教育プログラム eラーニング 共生社会

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本社会は均質性が高いとする議論が従来からなされてきたが、近年の社会的経済的变化の中で、異文化の要素が入るだけでなく、地域的、社会的、経済的な格差が拡大し、構成員集団の均一性という前提が崩れ、社会の多様化、複合化が進んできた。これからの教育においては、子どもたちが、知識・技能を身につけることに加えて、多様な背景を持つ人々と主体的に協働し、互いの違いを認め合い、対話を通して対等な関係を築いていくために、思考力・判断力・表現力を磨いていくように促していくことが必要であると考えられる。教科外活動「総合的な学習の時間」において、各教科等で身に付けた知識・技能を相互に関連付けて学習や生活に活かせるようにすること、他者との協働の中で様々な考えを受け入れる経験を通して課題を多角的に捉えることができるようにすること、そして、社会的問題を自らに引き付けながら解決に向けた取り組みを展開できるようにすることが重視されており、平成31年度から教職課程において「総合的な学習の時間の指導法」に関する科目が導入された。しかしながら、「総合的な学習の時間」の重要性が高まっている一方で、その指導法に関する研究はこれまで十分に蓄積されているとは言えないのが現状であり、「総合的な学習の時間」を指導できる教員の養成において活用される教育プログラムを構築することは、喫緊の課題であると考え、本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究では、教育の方法論としては、参加型の教育方法を採用し、社会の中で様々な意見が並立・競合するような現実の問題を学生自身が自らの問題として捉え、論点を明確にし、対話を重ねることを通して自らの頭で考え解決していくことができるように、ディベート、ロールプレイング、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションといった「為すことによって学ぶ」方法を採用して、共生の実現に貢献する資質を育む「総合的な学習の時間」の指導力を高める教育プログラムの構築を目的とした。

近年取り組みが始められてきたいわゆるアクティブ・ラーニング的な学修は、その前提となる基本的な知識の確かな習得がなされていないと、その効果は十分なものとはならない。本研究で構築しようとする学修システムは授業で扱う内容を予習としてオンライン学習で行うことによって対面学習の効果を向上する反転授業を採用するものであり、個別学修と集合学修とを併用したプロセスからなるものである。

3. 研究の方法

まず、研究代表者、研究分担者は「総合的な学習の時間」の共生の内容について先行研究を収集・分析した後、結果を持ち寄って討議を重ね、教育プログラムの内容の検討を開始した。

次に、教育プログラムの内容を確定し、eラーニング化を行った。eラーニング化にあたっては、研究分担者の研究を参照して、実績のある専門業者に委託した。そして、eラーニング化がなされた内容を搭載する学修システムの構築を開始した。また、コストを抑えるために、eラーニング用システムの代表格 Moodle を基盤とし、セキュリティ上の問題解決については、eラーニング化を委託した専門業者と共同して行った。

研究代表者及び研究分担者と交流のある大学の教職課程において、本研究で開発したプログラムを実際に利用してもらい、そのプログラムについて学生から意見を聴取し、開発した教育プログラムの問題点を明らかにした。

4. 研究成果

研究分担者と共に、日本社会における共生の課題について整理を行った。そして、日本と外国の生活習慣や日常生活ルールの比較、多文化共生の課題としてのヘイトスピーチ、共生に関する哲学的考察という3つの軸を立てて、多角的に共生社会について学ぶことができる「総合的な学習の時間の指導法」のeラーニングを採用した教育プログラムを開発した。

教職課程の学生から教育プログラムの意見を聴取し、プログラムに関する問題点が明らかになった。まず、eラーニングを採用しているということで、自分のペースでじっくり学ぶことができ、また、質問が用意されていることからしっかり考えながら学ぶことができるという点が評価されていた。一方で、作成したコンテンツの情報量が多いことから集中するのが難しいという意見やヘイトスピーチや在留資格といった難しい内容を理解するのが困難であったという意見もあった。

共生に関する課題はそもそも多様であるが、本研究では日本と外国の生活習慣や日常生活ルールの比較、多文化共生の課題としてのヘイトスピーチ、共生に関する哲学的考察という3つの軸を設定し、多角的に考察できるように教育プログラムを開発した。しかし、eラーニングコンテンツの情報量の多さやいくつかの難解な内容によって十分にコンテンツの内容を理解するこ

とが難しいということが学生の意見から見えてきた。学生が集中して取り組める情報量で各論となる e ラーニングコンテンツを作成し、対面授業でより深い学びが展開できるようにすることが肝要となる。さらに、より時代を反映した、学生にとって身近な課題を取り上げて、学生が教員になったときに貢献できる、より深い学びを実現する教育プログラムを開発していくことを今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 沼田潤・鋳純香	4. 巻 35
2. 論文標題 地域における「顔の見える関係」を基盤とした外国人児童・生徒への支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 相愛大学研究論集	6. 最初と最後の頁 23-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	林 隆紀 (Hayashi Takanori) (20264806)	佛教大学・社会学部・准教授 (34314)	
研究分担者	長谷川 精一 (Hasegawa Seiichi) (40269824)	相愛大学・人文学部・教授 (34421)	
研究分担者	奥野 浩之 (Okuno Hiroyuki) (80552067)	同志社大学・免許資格課程センター・准教授 (34310)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	鋳 純香 (Kasugai Sumika)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------